

科目	心理学基礎実験Ⅱ(心A)	単位数	1
担当教員	多田 美香里、木村 年晶、寺田 衣里		
履修対象	臨床心理学科2年秋学期		
目的	心理学の実験を通して実証的な考え方を学ぶことがこの科目のねらいです。心理学基礎実験Ⅱに続いて、心理学の基礎分野の題材をもとに実験を行い、報告書を作成します。心理学基礎実験Ⅱで学んだことを活かして、さらに高度なデータ処理方法や考察を深めることにも挑戦しましょう。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 (1)心理学の学術論文を読み、古典的な研究例を追試する。 「思考・判断」 (1)実験を通して実証的な考え方を学ぶ。 「技能・表現」 (1)データ集計・統計的分析を行い、科学論文を作成する。 「知識・理解」 (1)心理測定、仮説検証について説明できる。 (2)心理学の研究例について改善点やより良い検証方法の提案ができる。		
授業計画			
1	SD法によるイメージの測定と比較(1):心理学で広く用いられている印象判断(イメージ)を測定する方法を学びます。各自が対象概念を決め、仮説を立て、調査・検証します。この回は、SD法の意義と方法を解説します。		
2	SD法によるイメージの測定と比較(2):調査を実施し、集計作業を行います。		
3	SD法によるイメージの測定と比較(3):データの整理を行い、分析方法について解説します。		
4	SD法によるイメージの測定と比較(4):レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
5	ミュラー・リヤールの錯視(1):私たちに見えているままの世界と物理的世界は必ずしも同じではありません。本実験は錯視の現象についてミュラー・リヤールを用いて実験を行います。この回は錯視の現象および実験方法を解説します。		
6	ミュラー・リヤールの錯視(2):実験を実施し、集計作業を行います。		
7	ミュラー・リヤールの錯視(3):データの整理を行い、分析方法について解説します。		
8	ミュラー・リヤールの錯視(4):レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
9	行動観察(1):行動を観察し、記録し、分析することで行動の特徴や法則性を明らかにする手法を体験します。観察から得たデータの分析方法や発言などの情報の扱い方を学びます。この回は、実験の意義と実験方法を解説します。		
10	行動観察(2):実験を実施し、集計作業を行います。		
11	行動観察(3):データの整理を行い、分析方法について解説します。		
12	行動観察(4):レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
13	実習のまとめ(1):これまでの実習で学んだことを確認するための課題を行います。課題は、レポート(ある大学生が作成したと想定する)を添削するというものです。自分が学んだ知識を生かして、このレポートがより良いものになるように、間違いを指摘したり、アドバイスを書き込みましょう。		
14	実習のまとめ(2):前回に続いて、レポート添削課題を行います。		
15	実習のまとめ(3):作成したレポート添削課題を元に、実験およびレポート作成に関する個別質問を受け付けます。		
授業形態/具体的な内容	3つの実験を4週ずつ順に行います。順番は班によって異なります。実習の報告書としてレポートを提出し、添削を受け、修正を繰り返しながら、科学論文を書く力を養います。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は使用せず、教員が用意した教材に基づいて授業をすすめます。			
参考書	心理学実験指導研究会(1985). 実験とテスト=心理学の基礎 培風館		
成績評価の基準・方法	授業・実験への参加度、態度、レポートによって総合的に評価します。すべての課題でレポートを提出しなければ単位の取得は認めません。また、不正行為(他人のレポートを写すなど)の疑いがある場合は、単位を認定しません。		
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。		
準備学習	心理学基礎実験Ⅰで習得したことを深めていきます。以前添削を受けたレポートや、実習の反省点などを振り返って復習しておいてください。また、理解を深めるために、実験心理学、心理学研究法に関する書籍を読んでおくことを推奨します。		
備考		No.	PY322005